撰者になって，私たちの歌集を作ろう
～短歌の表現を吟味する交流を通して～

山梨大学教育学部附属中学校
授業者　那須　正和

【キーワード】　「私たちの歌集」　「語彙の拡充」　「ワードバンク」　「Googleworkspace」
「効果的な表現」

【授業の概要】

学習指導要領「読むこと」の言語活動例に「詩歌を読んで理解したことを引用して解説すること」が採り上げられている。本単元では，教科書などに出てくる作家の短歌から学び，なぜ名歌と言われるのか，作家が歌に込めた表現を自分なりに解釈し探求させたい。その活動を通して作家の見方や考え方に触れ，優れた表現が短歌全体にどのように生きていて，その主題は何かについても考えを及ぼしたい。さらに既習の知識と関連させ，そこから「自分たちの歌集」を作るために，自分のクラスの学級目標にそって生徒が選んできた短歌が，どのような点で優れた短歌なのかを考え，効果的な表現が短歌のどの部分に表れているのかを説明させたい。さらに選んだ短歌を Googleworkspace のジャムボード１枚にまとめさせ，他の仲間が短歌をどのような視点で選んだのかを交流させ，選んだ短歌が本当にクラスの歌集として載せるのにふさわしい歌なのかを生徒の交流から吟味させたい。

作家が短歌に込めた主題や短歌の世界の奥深さ，言葉の広がりや可能性について考え，歌の撰者として短歌をより身近なものとして捉えることができる授業を目指したい。

１．単元の目標

〔知識及び技能〕

(1)エ　抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに，話や文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにすること。

〔思考力，判断力，表現力等〕

C(1)エ　表現が，文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で，どのように働いているかを考えることができる。

C(1)オ　文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

「学びに向かう力，人間性等」

言葉が持つ価値を認識するとともに，読書を通して自己を向上させ，我が国の言語文化に関わり，思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

【言語活動例　中２】

Ｃイ　詩歌や小説などを読み，理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。

２．教材名　　栗木京子「短歌に親しむ」（光村図書出版「国語２」）

３．生徒の実態

第２学年３組，男子１８名，女子１８名の計３６名のクラスである。

生徒は，国語の学習に対して意欲的であり，授業での交流場面や考えの発表場面でも積極的に

発言を行う生徒が多い。国語科で行っている新聞記事を活用したＦＵＺＯＫＵワークシート，新聞のコラムの視写，帯単元的に行っている漢字学習などにも真面目に取り組んでいる。

「Ｃ　読むこと」の学習として１年生の時には「星の花が降るころに」から描写に着目して表現の効果について考え，ポップを作成する活動や，「少年の日の思い出」では語り手や構成に着目して文章を読み，本文に表れている描写からより深く心情を読み取ることに取り組んできた。

２年次には枕草子の「ものづくし章段」を読み，枕草子に表れている作者のものの見方，考えを探り，その羅列の意図を考えることを行った。さらに，読みとったことをもとにしながら「私のものづくし章段」を創作することを通して自分なりの視点や観点を設定し，言葉を吟味する活動を通して，語感を磨く活動を行ってきた。

仲間との交流から自分の考えを広げる活動として，より多くの意見に触れ，自分の考えを構築することを目指し，ワールドカフェやジグソー交流，４人班での日常的な交流活動など目的や場面に合わせて様々な交流活動を通して考えの共有を行ってきた。今回も自分が選んだ短歌の解釈を行う場面で仲間の意見を聞き，再考する場面を設定したい。

【日常の取組】

〇学びのプロセスモデル国語科編を意識させる

生徒に学習活動を意識させることは，授業に対しての構えをつくらせることができる。

「気づく→目標を設定する→学習する→再考する→深める→振り返る」という小さな学習サイクルを計画的に仕組む。また，「振り返り」ではポートフォリオを使って，学習活動を振り返り，学習を通して自分の考えの変容や身に付いた力を言語化して振り返ることができるようにしている。

〇交流を取り入れた授業

ファシリテーションの考え（他者との協働による知的相互作用の促進）を取り入れ，日々の学習の中で，自分１人で学習を完結させるのではなく，自分の考えを深めるために対話（他者との交流）を通して，自分の考えを再構成することができるようにしている。

考えを広げる話し合い，考えをまとめる話しあい，さらに深く探求するための話しあい，など目的に合わせて様々な交流の仕方を行い生徒自身で課題に向かう力をつけていく。

〇ワークシートを活用して，自分の考えを形成する活動

新聞記事を活用したワークシートを使い，社会や日常生活で起きている事柄に対して，自分の考えをもつことができるように，毎日取り組んでいる。国語科の授業と関係のある記事を使用し，事前学習にも活用している。

４．指導の内容と言語活動，教材の関わり

（１）言語活動設定の意図

短歌は三十一音から人間の喜びや悲しみ，目にした風景の美しさや自然への感動などを感じることができる。短歌の題材や用いられている言葉は，吟味され厳選されたものであり作者の心情が凝縮されたものであるため，言葉の一つひとつから，描かれている情景や心情を想像することが大切である。また，短歌には，たくさんの表現技法が用いられており，読む者のイメージを膨らませ，心を揺さぶる工夫が凝らされている。洗練された言葉や表現から作者のものの見方や感じ方をとらえ，自分のものの見方や感じ方を豊かにしていくことは，語感を磨き，書くことの資質・能力を身に付ける上で大変重要である。短歌に描かれた情景や伝わってくる心情を言葉を手掛かりとしながら解釈し，自分の知識や経験と結び付けながら，作品のよさを考え，そこから学んだことを生かして，自分たちのクラスのテーマに合った歌を探す活動は，既習事項やこれまでの生徒の経験と結びつけながら新たな視点で，言葉に迫り，語感を磨くとともに，多くの言葉と向き合い吟味する点において「読むこと」の資質・能力を養う上で大変

意義深いと考える。 本学級の生徒は，１学期に詩「見えないだけ」の学習において，言葉に着目して詩のよさを考える学習を行っている。また，小説「アイスプラネット」の学習においては，作品を読んで解釈したことや考えたことを，根拠となる言葉を引用しながら文章にまとめる学習を行っている。しかし，事前の学習実態調査 によると,「言葉の詳細な読み取り」「語彙の力」「心情の読み取り」など一部全国平均と同等やそれ以下という項目も見られる。

本単元では,短歌に詠み込まれた情景や作者の心情がよりいきいきと伝わってくる表現を「効果的な表現」とし，言葉を根拠に短歌を解釈し，選んだ言葉が作品にどのような影響を与えているかについて感じたことや考えたことをまとめることを中心に指導することとした。言葉の一つひとつから情景や心情を想像したり表現の効果を考えたりする交流を通して，名歌から抽出した表現をもとにして「私たちの歌集」の撰者になってなぜこの歌を選び，歌集に入れるのかを吟味する活動を行いたい。

（２）主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

- 教師による教材研究（伝統的な文芸としての短歌）と生徒の言語感覚とをつなぐ活動の設定。
- 交流の必要性を生徒が感じる学習課題，そして活動を意図的に仕組むことで，生徒の主体性や他者との交流の有用性が高まる活動として，以下の活動を設定した。

① 短歌と学習者との距離を縮められるようにする学習活動。

→ 他者との共有によって自分自身が感じた短歌や言葉の魅力を伝え合う活動。

短歌は３１音に作者の思いや様々な魅力が込められている。そこでその魅力を探ることを行い，なぜこの短歌は素晴らしいと感じるのかという魅力を探り，その魅力を仲間に紹介することを通して短歌の面白さや，ひいては言葉の広がりや奥深さに気が付くことができるような活動としたい。

② 「ワードバンク」を使い，語彙の拡充と言葉を吟味する学習活動。

→ 本校国語科として年度当初から「ワードバンク」という言葉をクラウド上に蓄積し，自分で作る言葉の辞典として使ってきた。自分自身が名歌にふれた際に新たな言葉と出会い，その言葉の表面的な意味だけではなく，隠れた思いなどについて深く探り，様々な使われ方や方法にも着目して言葉と向き合い，自らふさわしい言葉を選ぶことができるように言葉を吟味する活動を仕組んでいきたい。

（３）意識させたい「言語意識」

【 ５つの言語意識 】

- 相手意識　仲間や学級担任に対して
- 目的意識　名歌に込められた表現をもとに短歌を選ぶために
- 場面意識　自分がどのような意図でその歌を選んだのかを考える場面において
- 方法意識　自分が選んだ短歌を他者と交流すること通して
- 評価意識　表現の効果を明確にして短歌を選ぶことができたか。

（４）全体研究との関わり

①「言葉による見方・考え方」を働かせる学習課題の設定

本校の国語科として捉える「創造性」とは，言葉による見方・考え方を働かせることによって未来を想像する力，である。そのために生徒が主体的に言葉を捉えたり，捉えなおしたりすることが大切になってくる。そこでエンゲージメントの高まりを目指して，言葉を表面的

なものとして獲得することだけではなく，作品の中で出会う言葉を大切にし，その言葉の背景にある作者や時代背景，などにも考えを及ぼし捉えていきたい。

今回の短歌の授業では，教科書中の作家の短歌について言葉に着目して効果的な表現を抽出することを行い，なぜこの短歌が読み手に様々なことを想像させることができるのかについて考えさせたい。生徒同士の交流から短歌の魅力に迫り，その魅力を感じることができるようにしたい。そこから自分自身の興味を持った作家の教科書にはない短歌の魅力に迫ることにより，文芸としての短歌が，自分の感性や経験と結びつき，生徒が短歌を身近に感じられるような読みができるようにしたい。

②資質・能力を見取る評価の工夫

・振り返りシートを活用した形成的評価

ワークシートの記述から　授業後の振り返りの場面で授業感想（初めて知ったことや次の時間に向けて考えたこと）を記述させ，指導者が線を引いたり，コメントを残したりしながらフィードバックすることで，次の課題に向けての観点を生徒が意識できるようにしたい。それにより，生徒が見通しをもったり，授業のつながりを意識できたりすることが可能になると考える。

・身に付けさせたい資質・能力を可視化するための工夫

本単元では作家の短歌から効果的な表現を選び，深く考えることを行う。その際に，自分が考えた短歌の良さを仲間に伝え，仲間が考えた良さを知ることによって，短歌の魅力に迫るような交流となるようにしたい。また，短歌から得た表現を生かして「自分たちの歌集」を作ることを目指し，どのように短歌を読み，歌集の中に取り入れたのかという過程を見とるようにする。

③主体的に学習に取り組む態度の評価

本単元での主体的に学習に取り組む態度の評価として，まず，自分で選んだ作家の歌について探ることを行わせたい。そこでは自分で調べた作家の短歌のどこに着目し，その言葉などの表現はどのような意味を持ってその歌の主たる表現となっているのかを考えさせる場面において粘り強さを見とりたい。

また，自分が調べた短歌の表現を小グループで交流し，より多くの考え方に触れ，もう一度自身の短歌に立ち返り，その短歌の本当の魅力やその背景などを再考させる場面において自らの学習を調整させる場面を設定したい。

そこで主体的に学習に取り組む態度の評価規準を「短歌の表現を深く考えるために，自分たちで課題を決めて交流しようとしている。」とし，「おおむね満足できる」状況のＢの生徒の姿を以下のキーワードを示して具体的に想定した。

【キーワード】「主題に迫る効果的な表現」

①課題について考えを持つ。②自分が取り上げている表現は作品の全体にどのような効果を与えているのかを交流し，意見を出し合う。③試行錯誤しながら自分の考えを再考する。

これら①～③の過程を交流の場面とワークシートから見取る。

本時の目標を示し，見通しを持たせる。毎時間の振り返りを記述させ，「この時間に身に付いたこと」「この時間で分からなかったこと」「次の時間の課題」などを書かせ，試行錯誤の回数と考えの変容を書かせる

全体研究との関りとして学びのプロセスモデルを国語科として以下のように設定し，エンゲージメントをどのように系統立てて見とっていくのかを考え，特に「主体的に学習に取り組む態度の評価」を形成的評価，方略調整，総括的評価という３段階で粘り強さと自己調整をする姿を見とりたい。

○学びのプロセスモデル国語科編

学びのプロセスモデル国語科編							
	見通し		学習活動				振り返り
	①目標設定	②方略計画	③遂行	④形成的評価	⑤方略調整	⑥遂行	⑦総括的評価
エンゲージメント	・今までの文学的文章の読みを参考にして一つの表現の多様性や，言葉に着目することで，見えてくる世界があることを確認する。 ・文学館館長先生に短歌の読み方と創作についてご講義いただく。 （認知・行動） ・短歌の読み方を活かして「私たちの歌集」に載せる短歌を選ぶという課題を設定する。（感情）	Ⅰ，短歌の読み方を知り，短歌の疑問に思ったことや批判的に読んだ表現に着目して探る。（認知） Ⅱ，歌集のテーマを理解し，テーマに合う歌を選ぶ。 Ⅲ，仲間が選んだ短歌を比較，検討する。（行動・認知）	・短歌の読み方のモデルを示し，観点を明確にして読み，短歌の表現について考える。 （認知） ・短歌を分担し，短歌を深く探り，短歌中から自分が選んだ表現の効果を全体で共有する。 （行動）	・テーマに則って短歌を選び，なぜその短歌を選んだのか。観点を明確にさせておく。 （認知） ・選んだ短歌を小グループで交流させ，どの歌を歌集に載せるのかを観点を明確にして話し合う。 （行動）	・自分たちが選んだ短歌は本当にクラスのテーマに合っているのか。学んできたことが取り入れられているのかをもう一度考える。 （認知） ・ジャムボードで他の班の短歌を見てもう一度吟味する。 （認知・行動）	・自分たちが選んだ一首を出し合って最後の編纂会議を全体で行う。 （認知） ・全体交流の場面で多くの意見を聞き，考えを深める。 （行動）	・「自分たちの歌集」を読み合い，お気に入りの短歌にコメントをする。 （認知・行動） ・さらに良い短歌を選ぶために大切なことについて考える。 ・着目した表現が次の読みにつながるという有能感を感じる。 （感情）

５．指導計画と評価計画（　Ｃ領域「読むこと」４９時間中の６時間　）

（１）単元の評価規準

知識・技能	思考力，判断力，表現力	主体的に学習に取り組む態度
①　「短歌に親しむ」の学習を通して，抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに，話や文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにすること。 ((1)エ)	①　「読むこと」において，「短歌に親しむ」「短歌を味わう」に出てくる作家の短歌を読み，短歌の理解を深く行うために表現に込められた作者の意図や背景などに着目することで読みを深めることができる。 （Ｃ(1)エ）	①　「私たちの歌集」を編纂するために，根気強くより良い短歌を選び，なぜその短歌を選んだのかについて課題を決めて交流し，粘り強く課題を解決しようとしている。

	② 「読むこと」において，文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，短歌を深く読むことができる。 （C(1)オ）	

６．授業の計画（単元構想表）

		学習活動	評価
事前		○　単元全体の流れを理解し，本単元の学習の見通しをもつ。 ○　新出漢字，新出音訓については事前学習。 ○　山梨県立文学館館長三枝先生より短歌の読み方についてご講義いただく。 ・短歌を読む時にどのような点に注意して読むべきかを考えておく	〔知識・技能〕
第一次	１時 【精査】	○　文章を通読する。 ・それぞれの歌の読み方を確認する。 ・繰り返し音読をする ○　「短歌を味わう」に出てくる短歌に関する基礎的な知識について確認する。 ・学習班４人で短歌を分担する。 ・それぞれの短歌に対して疑問点などを挙げ問いを立てる。 ・それぞれの短歌の表現について考える。 ①表現技法（体言止め・区切れ）　②助詞の使い方 ③語句の意味　④作者について　⑤時代背景 ・便覧なども参照し理解を深める。 ・図書館の本やインターネットを参考にする。	〔知識・技能〕 〔〔思考・判断・表現〕①
第二次	２・３時 【精査・解釈】	○　「短歌を味わう」に出てくる作家の短歌を交流させる。 ・自分で調べた短歌について交流し，他者の考えを聞いて歌のエッセンスについて考える。（ジグソー交流） ・ホームグループで考えたことを共有する。 ・短歌の読み方についてどのようなことに着目すると短歌良さが見えてくるのかを全体で確認する。 ○　「私たちの歌集」編纂のために短歌を集める。 ・各クラスのテーマ １組「LETS’WALK　TOGETHER」　〝共に　歩み　〟 ２組「星空　～２組らしく輝け～」　〝輝き　個性〟 ３組「百花繚乱」　〝個性の輝き　花　〟 ４組「ＳＵＮＮＹ」　〝明るさ　太陽　自然〟 のテーマに沿った短歌を集めてくる。	〔主体的に学習に取り組む態度〕①

		・選んだ句（３首）がなぜ自分の心に響いたのかをジャムボードにまとめる。 ・選んだ歌の解説書を書き，着目した表現を仲間に紹介できるようにする。 ・解説書を書くためにワードバンクを使い，さらにワードバンクに入れることができるものを書く。 ○　小グループでそれぞれの短歌の魅力について発表する。 ・調べたことを発表するのではなく，選んだ短歌の効果的だと思った表現が，どのように短歌に活かされているのかを発表する。お互いにジャムボードの付箋機能を使って，表現に着目して意見を出し合う。	〔〔思考・判断・表現〕①
第三次	４・５時 【考えの形成・共有】	○　「私たちの歌集」の編纂を行う ・前時に交流で意見をもらったものを参考にして，３種から１首にしぼり，ジャムボードにまとめる。 ・どの短歌を「私たちの歌集」に載せるのかを決め，解説書をもう一度読み合う。 ○　できた歌を全体で読み合い振り返りを行う。 ・完成した歌集をみんなで読み合い感想を述べ合う。	〔主体的に学習に取り組む態度〕① 〔思考・判断・表現〕②

７．本時の展開

第３次　２時【５／６時間目】

（１）日時・場所　令和３年１１月４日（木）　山梨大学教育学部附属中学校　図書室

（２）授業クラス　２年　組

（３）目　標　観点を明確にして「私たちの歌集」の編纂会議をしよう。

（４）展　開

	学習活動	指導上の留意点	評価について
つかむ １０分	１　前時の学習を振り返り，本時の目標を知る。 ・前時までの学習を確認する。 ・本時の目標，学習内容を知る。	・自分が選んだ短歌をもう一度見直す。 ・①どの表現に着目したか ②テーマとどのようにつながっているか ③場面・主題・評価	
	私たちの歌集の完成に向けて編纂会議をしよう。		
深める	２　「私たちの歌集」の短歌を選ぶために小グループで交流を行う。 ・４人グループで解説書を読み合い，どの短歌がどのような点で優れた	自分が選んだ３首の歌を歌集に載せたい順にプレゼンする。 ・一番に選んだ歌の表現に着目してその解釈をみんなに伝	発言・活動の様子

40分	短歌なのかについて考えを出しあう。 ・「私たちの歌集」に入れるべき短歌なのかを撰者が表現をもとに考える。 ・なぜその短歌を「私たちの歌集」に載せたいのかをテーマとも合わせて考える。 3　自分が選んだ歌の表現に着目して再度考え直し撰者よりを書く。	え，意見をもらう。 ・みんなは自分の解釈や表現をどのように読むのか。 ・あくまでも表現に着目させ，最終判断としてテーマとの関わりを考える。 ・仲間からもらった意見を聞き，もう一度自分の考えを再構成する。	[主体的に学習に取り組む態度]① 観察・ワークシート ・前時までの学習をもとに自分の選んだ短歌の表現について交流し，どの短歌がクラスの歌集としてふさわしいか考え、再度自分の考えを調整しようとしている。
振り返る5分	4　本時のまとめと次時への見通しをワークシートに記入する。	・振り返りでは，本時で身に付いた力や考えたことを記述させる。 ・次の時間は「私たちの歌集」を発表し，まとめを行うことを予告する。	ワークシートへの記述。

８．授業のまとめ

今回の授業では事前授業ということで，歌人で山梨県立文学館館長三枝昂之先生をゲストティーチャーにお招きし，「短歌の読み方・創り方」をご講演いただいてから，授業に入った。本単元の振り返りの中に「一つの表現に着目することで，短歌の作者がこの歌に込めたかった主題を知り、奥深さと３１音の奥深さが見えてきた」や「読んだことを生かして自分でも日常生活の感動などを短歌を詠んでみたい」といった意見が多くあった。そこで授業後の発展として生徒たちは短歌を実際に創作し，フォームスで自分が創った短歌を送り,教師がまとめたものを三枝先生にお願いして見ていただいた。その中で優秀だった短歌を何首か二度目のご講義の中で鑑賞したり，解説した頂いたりするなかで，言葉選びの素晴らしさ，言葉を通して広がる世界の興味深さを実感し，短歌を身近に感じることができたのではないかと考える。

さらに今後の課題として短歌の創作の時などにワードバンクを使うことを行ったが，なかなか日常の生活の中で得た言葉を使うことができない生徒が多かった。そこでどのような形で言葉を集めるか。また集めたものを日常の活動や必要な場面とどのように関連付けるかということを指導し，積極的に使える語彙の拡充に力を入れる必要を感じた。